

山ぼうし

第42号 平成20年 9月30日

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、本校正門脇に植樹されており、

花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし

の碑（初代 PTA 会長盛合聡の揮毫）がある。



インターンシップ

校長 兼 平 栄 補

今日の社会環境は、職業意識が希薄で、社会に出て行こうとしない、ニート（約60万人）やフリーター（約180万人）の若者を増加させている。また派遣労働など雇用形態も変化し、不安定な社会情勢を生み出す要因となっている。大学進学率が上昇しているが、大学を出ても仕事に就かない若者も増加している。

このようなニートやフリーターを生み出す背景として、日本の教育問題が存在する。若者の希薄な職業意識は、もともと日本の初等中等教育の中に職業を意識させるようなカリキュラムがほとんど組み込まれていないことに起因しているように思われる。県では今、慌てて小学校段階からのキャリア教育を行っているのが現状である。そのような日本の職業教育の不備を補う手段として、インターンシップは大きな役割を果たしている。

高校生は心理社会的発達段階において、青年期に位置づけられている。青年期は「自分さがし」の時期でもある。それは「自分とは何か」「自分らしさとは何か」などの発達課題を抱えて、その解決を求めて、あれこれ模索し、苦悩しながら成人になるための準備を行う時期である。その「自分さがし」の対象の一つとして、「自分に適した職業を探す」という大きな課題が存在する。

福沢諭吉は、『福沢心訓七則』の中で、次のように述べている。

- 一、世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つという事です。
- 一、世の中で一番みじめな事は、人間として教養のない事です。
- 一、世の中で一番さびしい事は、する仕事のない事です。
- 一、世の中で一番みにくい事は、他人の生活をうらやむ事です。
- 一、世の中で一番尊い事は、人の為に奉仕して決して恩にきせない事です。
- 一、世の中で一番美しい事は、全ての物に愛情を持つ事です。
- 一、世の中で一番悲しい事は、うそをつく事です。

この言葉に表れているように、自分に適した職業に就くどうかは、人生の幸福を左右するほど、大きな役割を果たすものだと思う。

高校のインターンシップは、自分に適した職業を探し出すための手段というより、仕事をする上での要件を体得させるために行っている。仕事を行っていく中での失敗や成功体験を通して、また、年代や考えの違う人達との人間関係を通して、生徒は、漠然とイメージしていた仕事が具体化され、その職業が自分に適しているかどうか判断できるようになり、自身の就業への準備度合いを把握できることになる。そのことによって、自己認識も深まり、「自分とは何か」という問いに対する答えの糸口を掴むことができる。この意味において、私は、インターンシップは生徒達に、絶好の「自分さがし」の機会を提供する実習であると考えている。

10月行事予定

10月	3日(金)	県ロボット競技大会
	8日(水)～10日(金)	インターンシップ
	16日(木)	生徒会役員選挙
	23日(月)	思春期歯科保健指導(M1)
	28日(火)～29日(水)	校内体育大会
	31日(金)	思春期歯科保健指導(EF1)



就職試験始まる！

今年度の求人社数は9月15日現在で477社（宮古管内26社、県内30社、県外421社）となっています。昨年度末の457社を既に超えている状況です。県内・管内は昨年と比べあまり増減はありませんが、県外は昨年より増加しております。

民間企業への就職希望者77名中67名が、ミスマッチがないよう夏休み返上で企業を訪問をし、企業研究などを行っており、夏休み後は履歴書の作成や就職試験に向けて面接練習を行っています。その他、陸中宮古青年会議所の皆様にご協力を頂き9月2日から3日の二日間、模擬面接指導を行いました。生徒たちは実際の企業経営者の方々の面接指導に、緊張しながらも真剣に取り組んでおり、本番に向けて自分の仕上がりを確認する良い機会となりました。

9月16日から全国一斉に就職試験が始まり、その結果が続々と届いています。9月26日現在の本校の内定率は78.0%であり出足が良くありません。不採用の理由としては、「学科試験の成績が一定レベルに達していない」「欠席が多い」などです。自分の進路決定を早期に決めるには今まで以上の学力向上と1年次から学校を休まないような努力が必要です。



模擬面接指導の様子

講演会行われる

<市長講演会>

9月12日（金）6校時に2年生113名を対象とした市長講演が行われました。

「本州最東端のまち宮古市の挑戦」という演題のもと、宮古市の産業の推移や宮古市の製造の軸となるコネクタや金型の説明をいただきました。

市長の話は次の3点が軸になっていました。

1. 宮古市の現状
岩手県のコネクタ産業は全国3位の出荷実績を上げているが、その約7割を宮古地区が支えている。コネクタという小型部品の技術の蓄積と向上、人材の育成に力を入れ、地方の不利を跳ね返している。
2. 人材の確保と育成
産業の質を高めるには人材力が不可欠。その為に宮古市で「寺子屋」を開き地域協力を行っている。
3. 産官学の連携
宮古技術専門学校で金型科を起こしたり、「宮古市産業支援センター」を設立するなど、産業と行政と学校等の連携により工業の振興をねらっている。
結びに、「今後、皆さんは自分の夢を持って、進んで欲しい。」と生徒たちに激励の言葉をいただき、講演会を終了しました。
生徒たちにとって、宮古の過去、現在、将来を知り・考えるいい機会となったと思います。この地域の今後を担っていくのは工業生であることを実感した生徒も多かったと思われます。今後の進路選択の参考になればと考えています。



<インターンシップ講演会>

9月17日（水）に二学年を対象に講演会が行われました。二学年は1ヵ月後にインターンシップ（就労体験）を控えており、そのための心構えや社会人としての在り方等、パンチ工業（株）宮古工場長白谷日出男氏の貴重な経験からのとてもすばらしい講演でした。

講演会は白谷氏の自己紹介からはじまり、会社の紹介や白谷氏の体験談等印象に残る言葉が多々ありました。なかでも印象に残っている言葉が2つあります。一つは「できないことに言い訳をするな」です。とかく、できないことや無理そうな物事に対して、取り組む前にあきらめたり、敬遠がちになるが、できないと決めつけずできるためにどうすれば良いかを考える。



やればできるんだ、ということが印象に残りました。もう一つは「ものがあるから考えない、ものがなければ考える」です。世の中には、たくさんのものであふれており、便利な反面、試行錯誤したり創意工夫したりすることが少なくなっています。余計な無駄を省き、物事を考えることで新しい発見やより良いアイデアが生まれてくるはずですよ。

生徒たちの講演を聴く態度も大変立派でした。講演後に感想文を書きましたが、みな何かしら得るものがあつたようです。また、インターンシップなどの進路意識も向上したはずですよ。

今回の講演を機に今後生徒たちが自分の進路を見据え、進路希望が達成できることを願います。また、お忙しいところ本校に講演してくださったパンチ工業（株）の白谷氏、上川原氏に心より感謝申し上げます。